



Minami-hatoba_1(Shirouyasu_Suzuki)

2007-02-28

「清水邦夫の戯曲について」の文章を書き上げる。

27日の朝、トイレで読んだ『脳と意識の地形図』には、脳細胞の記憶の道筋が書いてあった。今日も穏やかな日差しの中庭に出てバラの新芽を撮る。仕事場へ行って、日録ノート。清水邦夫『草の駅 - オフィリア幻想』『破れた魂に侵入 - Life Line』『イエスタデイ』を読み返す。2時過ぎに野々歩とネムちゃんが来る。わたしはきつね蕎麦を作って昼食。3時半過ぎに野々歩たちが帰った後、仮眠。4時過ぎにコーヒーを淹れて飲む。午前中に外に出た猫が帰って来ないのが心配。[バラの新芽](#)をBlosxomblogに入れる。仕事場で「清水邦夫の戯曲について」を書く。7時頃、台所に行くと、猫が帰ってきていた。先日煮た大根とカジキの煮付けを温めて、長ネギのみそ汁を作り、ほうれん草を茹でて、それらで夕食。30分ぐらい仮眠。仕事場に戻り、「愛を生ききる台詞 - 清水邦夫の戯曲について」とタイトルにして書き上げた。およそ19800字の原稿になった。明日、大平さんにメールで送る予定。11時廻って風呂に入る。出てから、林檎1個、薩摩芋小2切れ、一口羊羹1個、煎餅ごま半欠けと醤油1枚を食べて、温めた牛乳を飲む。薬とサプリメント。仕事場に行って、「灰皿町blog日記」を書く。

01:08:11 - shirouyasu - No comments

2007-02-27

「清水邦夫の戯曲について」の文章の最終メ切まであと2日。

26日の朝、トイレで読んだ『脳と意識の地形図』には、神経細胞の概念のネットワークが形成されるためには、関係するネットに重みがかかって連携されるが、正しくないやり直されて、正しくなったところで固定されるということだ。欲求にかなったものが正しいとされるという。穏やかな日差しに四つ咲いたカタバミを撮る。仕事場へ行き、『タンゴ・冬の終わりに』をざっと見直してから、「清水邦夫の戯曲について」の文章を書き継ぐ。2時過ぎに麻理がレタス入り卵おじやを作って昼食。仮眠。うとうとしながら「はぐれ刑事純情派」しばらく見て、女のアップで以前見たことに気がつく。コーヒーを淹れて飲み、仕事場へ。文章を書く。7時頃麻理がステーキを焼いて、みそ汁とで夕食。仮眠。「浅草・ふくまる旅館」を半分眠りながら見る。仕事場へ行って、[四つ咲いたカタバミの花](#)をBlosxomblogに入れて、文章を書く。11時頃風呂に入る。出てから、林檎1個、薩摩芋半切れ、一口羊羹1個、醤油煎餅小2枚を食べて、牛乳をコップに一杯温めて飲む。薬とサプリメント。仕事場に戻って、「灰皿町blog日記」を書く。

00:49:33 - shirouyasu - No comments

2007-02-26

「清水邦夫の戯曲について」の文章を書き始めて10日目。

25日の朝、トイレで読んだ『脳と意識の地形図』には、脳に記憶される「概念」は概ね視覚、機能、情動というような側面を持っていて、それぞれの側面は別々の領域に記憶されているということだ。例えば「犬」の概念は四本脚の動物のイメージ、毛の手触り、鳴き声、可愛いなど別々に記憶されていて、思い出すときに集められて統合した概念となるということだ。穏やかに晴れた庭に出て[咲き始めたクリスマスローズの花](#)を撮って、仕事場へ行き、日録をノートしてからBlosxomblogに入れる。今日書こうと思っている『楽屋』をざっと通して読み返して、「清水邦夫の戯曲について」の文章を書き継ぐ。2時過ぎにかき揚げ天ぷら蕎麦を作って昼

Navigation

[Previous 月](#)
[Next 月](#)
[Today](#)
[Archives](#)
[Admin Area](#)

Categories

[All](#)
[General](#)

灰皿町の本

●[幻想小説『なめくじキーホルダー』清水鱗造](#)

●[「週刊読書人」詩時評一九九二-一九九三年 清水鱗造批評集 第二分冊](#)

Search

食。ベッドに横になって、うとうとしながら、全日本ラグビー日本選手権東芝対トヨタを見る。1月に早稲田の試合を見てからラグビーが面白くなった。でも、ルールも何も知らない。4時過ぎにコーヒーを淹れて飲む。米を研いで炊飯器のスイッチを入れてから、仕事場に行って、文章を書く。6時を廻って、大根を切って、昨日のカジキとの煮付けに足して煮る。7時前にその大根の煮付けとみそ汁で夕食。食後、ベッドに横になってうとうとしながら「ダーウィンが来た」を見て、続けてNHK大河ドラマ「風林火山」を見る。仕事場へ。「清水邦夫の戯曲について」の文章を書く。書き始めてから今日で10日目。15000字ほど書いた。最終メ切りが28日といわれて、もう少し書くとつもり。11時ごろ「灰皿町blog日記」を書く。風呂に入り、出してから、草多が見ているテレビを見ながら、林檎1個皮をむいて丸かじり、薩摩芋電子レンジで温め1切れ、一口羊羹、ごま煎餅半分醤油煎餅小1枚を食べて、温めた牛乳を飲む。薬とサプリメント。仕事場に戻って「灰皿町blog日記」を書き上げる。

00:44:21 - shirouyasu - No comments

2007-02-25

イメージフォーラム附属映像研究所で卒制作品の講評をする。

24日の朝は、7時頃目が覚めたら、北向きの窓の硝子を風が叩いていた。その硝子は加湿器の水蒸気の水滴で曇っていた。NHKの「芋たこなんきん」と「君の名は」を見て、8時半頃起床。朝食を食べた後のトイレで読んだ『脳と意識の地形図』には、数十億個の神経細胞を結ぶ接続は数兆に及ぶと書いてあった。庭に出て、水仙の蕾を撮り、仕事場に行く。日録ノートしてから、[膨らんできた水仙の蕾](#)をBlosxomblogに入れる。mixiを見て、メールを出す。12時近く、佃煮とノリで軽い昼食。着替えて、12時半を廻って家を出て、杖を突いて坂の下まで歩いて行って、タクシーを拾ってイメージフォーラムへ行く。階段が心配だったが、一段一段昇った。澤さん池田さん富山さんに久しぶりに会い、脚の具合など話す。午前中の授業を終えた村山さん奥山さんと言葉を交わす。それからかわなかさんが来ていると話す。1時過ぎから、かわなかさんと4人の卒制作品の講評。終わった後、富山さんと話しをする。5時過ぎにタクシーで帰宅。メカジキと大根を煮て、ジャガイモとワカメのみそ汁を作る。6時半過ぎて早めの夕食。食後、夕刊を見る。寝室に行って仮眠。うとうとしながらテレビ。8時過ぎに仕事場に行って、「清水邦夫の戯曲について」の文章を書く。10時半廻って、「灰皿町blog日記」を書く。風呂に入る。出してから、林檎1個と薩摩芋1切れと角きんつば半分とごま煎餅半分と醤油煎餅小1枚を食べて、牛乳を飲む。薬とサプリメント。仕事場に戻って「灰皿町blog日記」を書き上げる。

00:21:47 - shirouyasu - No comments

2007-02-24

「清水邦夫の戯曲について」の文章を書く。

23日の朝、トイレで読んだ『脳と意識の地形図』には、神経細胞の発火パターンは、神経伝達物質のアセチルコリンが働いて増幅されて連合野から大脳辺縁系の海馬へと伝えられて記憶に刻み込まれると書いてあった。[テーブルの上の花瓶に挿した椿の花](#)を撮って仕事場へ。日録ノート。椿の花をBlosxomblogに入れる。「清水邦夫の戯曲について」の文章に引用する『狂人なおもて往生をとぐ』の部分を読まねかでテキストに取り込み修正する。けっこう時間が掛かって終わったのが2時過ぎ。麻理が作った煮込み蕎麦で昼食。仮眠。3時半頃起きて、コーヒーを淹れて飲む。仕事場へ行って、「清水邦夫の戯曲について」の文章を書く。8時近く、肉とニラとキノコと卵と納豆の炒めたものとみそ汁を麻理が作って一緒に夕食。ロダンのクイズ番組をうとうとして見る。9時廻って仕事場へ行って、メールを見て返事。文章を書き継ぐ。11時近く風呂に入る。出してから、林檎、薩摩芋1切れ、角

Login

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

Powered by



きんつば半分、煎餅小2枚、牛乳。薬とサプリメント。仕事場へ。「灰皿町blog日記」を書く。

00:53:50 - shirouyasu - No comments

2007-02-23

「清水邦夫の戯曲について」の文章を書き、『狂人なおもて往生をとぐ』を読み返す。

22日の朝、トイレで読んだ『脳と意識の地形図』には、神経細胞の発火パターンが経験から出来上がって行くには、長くて2年は掛かると書いてあった。頻繁に繰り返す経験は「保温され」、さらに「記憶に刻み込まれる」が、それは寝ているときなされるということだ。庭に出て、椿の花を撮影して、廻りの重なり合った葉を剪定した。そして、塀の方にあった蕾を切り、それを麻理が花瓶に挿してテーブルに置いた。仕事場に行って日録ノートして、[椿の花](#)をBlosxomblogに入れる。伏屋さんから「映画は生きものの記録である」のチラシのことで電話があった。それから、「清水邦夫の戯曲について」の文章を書く。2時過ぎにかき揚げ天ぷら蕎麦を作って昼食。仮眠。眠ってしまい、4時頃目覚める。コーヒーを淹れて飲む。仕事場に行って、また「清水邦夫の戯曲について」の文章を書く。6時半頃ちょっと休んで夕刊を見て、仕事場に戻って書く。7時半廻って、残りのおでんを温めて夕食。炊飯器のご飯がちょっとかりかりになっていた。仮眠。「新・京都迷宮案内」をうとうとしながら見る。仕事場に行って、『狂人なおもて往生をとぐ』を読み返す。9時半過ぎに麻理が帰ってきて、道に蛙がいるから何とかして、というので、塵取りに載せて向かいの家の植え込みの根本に移す。かなり弱っていたが、何処から出て来た蛙だろうかと思いがたらない。11時前に読み終わって、風呂に入る。出てから、林檎、薩摩芋1切れ、角きんつば半分、煎餅1枚と半分、牛乳。薬とサプリメント。仕事場に戻って「灰皿町blog日記」を書く。

00:25:24 - shirouyasu - No comments

2007-02-22

「清水邦夫の戯曲について」の文章を書き、『冬の馬』を読み返す。

21日の朝、トイレで読んだ『脳と意識の地形図』には、生まれて間もない赤ん坊の脳では、神経細胞の発火のパターンができてないために、視覚情報を伝える神経細胞と聴覚情報を伝える神経細胞がリンクして色の刺激に音が反応してしまうといったことが起こり、純粋なクオリア状態になって、共感覚が発生しているのはいかた書かれていた。咲きそろったシクラメンを撮って、仕事場へ。日録ノートした後、「映像演劇」No.2を編集する大平勝弘さんにメールで連絡を取る。「清水邦夫の戯曲について」の文章を書く。麻理に銀行に行って現金を下ろして来て貰う。2時過ぎに、麻理がかき揚げ天ぷら蕎麦を作って昼食。しまおまほさんから『まほちゃんの家』が送られてくる。野村尚志君から季刊「凜」10号が送られてきて読む。仮眠。4時前に起きてコーヒーを淹れて飲む。しまおさんと野村君にmixiのメッセージを送る。Blosxomblogに[咲きそろったシクラメン](#)を入れる。「清水邦夫の戯曲について」の文章を書く。7時頃、昨日のおでんを温めて一人夕食。仮眠。「ためしてガッテン」で、歯ブラシで歯茎を磨くと肺炎の予防になるということを知る。仕事場を下りて、文章の成り行きで、清水邦夫作『冬の馬』を読み返す。11時前に風呂に入る。出てから、スポーツニュースを見ながら林檎、薩摩芋1切れ、大福半分、煎餅小2枚、牛乳。薬とサプリメント。仕事場に行って、「灰皿町blog日記」を書く。

00:27:38 - shirouyasu - No comments

2007-02-21

「清水邦夫の戯曲について」の文章を書き継ぐ。

20日の朝、トイレで読んだ『脳と意識の地形図』には、身体概念、空間概念、時間の概念は基本的な概念として遺伝子に組み込まれているが、他の概念は学んで行くものということだ。脳は生まれたときからその神経細胞は活動しているが、パターンとしてリンクされてないので、意識されないが、成長するに従って様々な発火のパターンが出来ていくというらしい。黄色くなったハイビスカスの葉を撮って仕事場へ。日録ノート。「清水邦夫の戯曲について」の文章を書き継ぐ。2時頃、あぶらげと長ネギのつゆ蕎麦を作って昼食。仮眠。テレビを見ないでうとうとする。3時前にコーヒーを淹れて飲む。仕事場に行って、「清水邦夫の戯曲について」の文章を書く。6時前に大根とジャガイモを皮をむいて切って、おでんのねたと一緒に煮る。夕刊を読んでいて、ご飯を炊くのを忘れているに気がつき、お米を研いで炊飯器のスイッチを入れる。そのまま夕刊の読み、テレビのニュースを見て、おでんの煮加減を見たりしてご飯が炊けるのを待つ。ご飯が炊けて、7時におでんで夕食。仮眠。さんま、歌謡曲などちらちら見てうとうと。8時半廻って仕事場へ。Blosxomblogに[葉が変色したハイビスカス](#)を入れる。それから、また「清水邦夫の戯曲について」の文章を書く。11時廻って風呂に入る。出てから、林檎、薩摩芋一切れ、大福半分、煎餅2枚、牛乳。薬とサプリメント。スポーツニュースで松坂の遠投を見て、仕事場へ下りて、「灰皿町blog日記」を書く。この2、3日、脚の痛みが少しよくなっている。

00:43:39 - shirouyasu - No comments

2007-02-20

椿の花のつぼみを見つけ、南瓜を煮る。

19日の朝、トイレで読んだ『脳と意識の地形図』には、事故にあたりした時には、神経伝達物質が大量に放出されて時間ループが速くなり、時間が止まったように感じられると書いてあった。人の今の一瞬というのは、0.1秒くらいだという。蠅の羽ばたきなどはそれでは見えないが、人間が生きていく上ではそれで十分なのだと書かれていた。清水邦夫の戯曲の登場人物と幕開きの場面を「清水邦夫全仕事」からスキャナーでテキストに取り込む。2時頃、麻理が出掛ける前に作ってくれた里芋入り野菜おじやで昼食。仮眠。「はぐれ刑事純情派」。人情もの。コーヒーを淹れて飲む。庭に出て、葉に隠れたところに椿の花のつぼみを見つけた。堀の方の葉が重なった中にも一つ、まだまだ小さくて堅い蕾もあった。去年は咲かないで今年も咲かないのかと思っていたので嬉しかった。仕事場で取り込んだテキストと直す。6時前に南瓜を缶詰のグリーンピースと煮る。続けて大根のみそ汁も作る。夕刊を読んで、7時になって南瓜の煮付けとみそ汁で夕食。仮眠。TBSの浅草の旅館を舞台にしたドラマを見る。これも人情もの。9時過ぎに仕事場へ下りて、[屋間見つけた椿の蕾](#)をBlosxomblogに入れる。取り込んだテキストを修正する。それから「灰皿町blog日記」を書く。風呂に入る。出てから林檎、薩摩芋大きい一切れ、煎餅1枚半、牛乳。薬とサプリメント。「にんげんどキュメント 41歳のボクサー西澤ヨシノリ」を見て仕事場へ。「灰皿町blog日記」を書き上げる。

01:09:52 - shirouyasu - No comments

2007-02-19

「清水邦夫の戯曲について」の文章を書き継ぐ。

18日の朝、トイレで読んだ『脳と意識の地形図』には、時間の概念ということが書いてあった。身体概念も空間概念も人間に深く根付いているが、時間の概念も重要な働きをしているという。時間の概念は神経細胞のドーパミンを燃料にした発火のループということだが、前頭葉の前頭野が肥大してそのループに障害が起きた人に取っては、あらゆるものも凄く速く動いていると感じ、時計の5分間を体内時計では1分と感じたということだった。また、前頭葉に傷が付くと、身体が固まっ

てしまい彫刻作品のように動けなくなるカタトニーになるということだ。居間で雨の「東京マラソン」の中継を見てから、[雨で開かないカタバミの蕾](#)を撮って、仕事場に行き、それをBlosxomblogに入れる。それから、「清水邦夫の戯曲について」の文章を書き継ぐ。2時頃、麻理が野菜入り月見蕎麦を作って昼食。仮眠。うとうとしながらNHK「心の時代」を見て、トーマス・カーシュナーという禅宗の僧侶の話を知る。「鏡が窓になり、悩みが楽しみになる」なんて言っていた。4時頃、コーヒーを淹れて飲み、大根とホタテを煮る。今日もお米を研ぐ。ラグビーの中継を見る。仕事場に行って、文章の続きを書く。7時頃、大根とホタテの煮付けと麻理が作ったみそ汁で夕食。ベッドでNHK大河ドラマ「風林火山」を見て仕事場へ。文章の続きを書き、詰まって、「灰皿町blog日記」を書く。風呂に入る。出てから、林檎、薩摩芋1切れ、小さいあんパン、煎餅2枚、牛乳。薬とサプリメント。仕事場に戻って、麻理がアマゾンで購入するのを手伝い、「灰皿町blog日記」を書き上げる。

00:13:25 - shirouyasu - No comments

2007-02-18

蜷川幸雄演出『真情あふふる軽薄さ2001』のDVDを見る。

17日の朝、トイレで読んだ『脳と意識の地形図』には、身体概念と実際の肉体との間の連携が切れしうることが書いてあった。夢を見ている時は、概念の身体だけなので、空を飛ぶことも出来るということ、また怪我などで腕を無くした人が無くした腕をあるように感じてしまうのも、身体概念が元のまま残っているからだという。ハイビスカスの花を撮って、仕事場へ行き日録をノート。メールの返事を書いて、清水邦夫作蜷川幸雄演出『真情あふふる軽薄さ2001』のDVDを、テキストと合わせながら見る。初演当時の状況に合わせて書かれていた台詞が直されていた以外には同じだった。2時過ぎ、麻理が作って行ってくれた野菜入り卵おじやで昼食。仮眠。4時頃起きてコーヒーを淹れて飲む。仕事場に行って、「清水邦夫の戯曲について」の文章を書き継ぐ。7時頃、昼のおじやにご飯を足して煮直し、餃子を焼いて一人で夕食。夕刊を見る。テレビでフランスのカルカソンヌの城壁をうとうと見ながら仮眠。続いてドラマ「ハゲタカ」を見てしまう。型どおりで面白くなかった。風呂に火をつけて、Blosxomblogに[一つが萎れて一つが咲いたハイビスカスの花](#)を入れる。それから風呂に入る。風呂にはいる時、麻理が、わたしが毎朝飲む紅茶や蜂蜜などを買って帰ってくる。風呂から出て、林檎、薩摩芋半切れ、小あんパン1個、煎餅1枚、牛乳。薬とサプリメント。仕事場に戻って「灰皿町blog日記」を書く。

00:32:55 - shirouyasu - No comments

2007-02-17

青山病院の診察から帰って、玉野真一作品『長髪RIOT』を見る。

16日の朝、トイレで読んだ『脳と意識の地形図』には、無意識のことが書いてあった。身体の筋肉や神経から絶えず情報が脳に伝えられ、その神経細胞がそれなりに発火して身体を動かしているわけだが、それらは意識にならない。例えば、歩いていて石に躓いたとき、その瞬間「歩いていて躓いた」という神経細胞のパターン発火が40ヘルツ以上になり、意識に昇るとのことだ。[二つ咲いたカタバミの花](#)を撮って、仕事場に行き、日録をノートしてからBlosxomblogに入れる。『署名人』の展開を辿ってメモする。12時半過ぎに麻理がキノコと野菜入り卵おじやを作って昼食。1時過ぎに麻理にタクシーを拾ってきて貰って青山病院へ行く。2時過ぎに小沢医師の診察を受ける。小田切病院で体験リハビリを受けたことを話して、最近10メートルほど歩いただけで左脚がひどく痛くなるので、加圧リハビリをやると、右脚への負担が増して、「腰部脊椎狭窄症」が悪化するのではないか、ということ、当分は血行と神経と痛み止めの薬を飲んで痛みの様子を見て、そして治ら

なければまたブロック注射をするということになる。新たに薬30日分の処方箋を貰い、青山病院の前の薬局で買って、タクシーを拾って帰宅。なかなか来ないタクシーを待つ間の、なま暖かい風邪が、ちょっと寒くなったが気持ちよかった。コーヒを淹れて飲み、夕刊を見る。仕事場へ行き、玉野真一さんから送られてきた彼の新作『長髪RIOT』のテープと自己紹介DVDを見る。『長髪RIOT』は、深閑とした神社の境内でハットを持って安産を祈る長髪RIOTが、カブトムシ男のカブトムシと衝突して倒れると、カブトムシ男がポケットから小銭をはたいて賽銭を上げて祈る。と妊婦の生命力が旺盛になり、乳首から飛ばした乳が神社の鈴からスイカ男を襲い、長髪RIOTは、倒れたスイカ男の頭を割ってしまい、スイカ男の頭を洗う水に押し流されて、川から海へ流されてしまうという内容で、妊婦崇拜の原始的な雰囲気濃厚な作品だった。8ミリフィルムの質感がよかった。身体のアクションの筋道を追って、3回繰り返して見た。自己紹介DVDは彼の部屋の侵入した男が、これまでの作品に使われた物を探し出して、それで作品を紹介するというしゃれた短い作品になっていた。7時半廻って麻理が帰って来て、ハンバーグを焼いて一緒に夕食。仮眠のつもりが眠ってしまい、目を覚ましたら10時を廻っていた。風呂に火を点けて、薩摩芋を切って蒸かすために火に掛け、仕事場に行って「灰皿町blog日記」を書く。麻理に風呂の火と薩摩芋の火を止めて貰う。風呂に入ってから、林檎1個、どら焼き、薩摩芋半切れ、煎餅半欠け、牛乳。薬、血行と神経の薬が加わる。サプリメント。仕事場に下りて「灰皿町blog日記」を書き上げる。

01:32:35 - shirouyasu - No comments

2007-02-16

清水邦夫の戯曲についての文章を書き始める。

15日の朝、トイレで読んだ『脳と意識の地形図』には、意識を何かに集中して働かせた場合、神経細胞はパターンをなして発火するという。最近会った母親の顔を思い浮かべるとこのような時は、記憶が刻まれた「海馬」と、統合する「側頭野」と、「視覚野」の神経細胞がパターンを作って発火すると書いてあった。ハイビスカスの花を撮って仕事場へ行き、日録ノート。それから、多摩美の映像演劇学科の福島学科長のお宅に電話して、研究誌「映像演劇No.2」の〆切の日と原稿の送り先を確かめて、清水邦夫の戯曲についての文章を書き始める。1時廻って、タベちょっと残ったカレーで、カレー蕎麦を作って昼食。仮眠。「はぐれ刑事純情派」をうとうとしながら見る。3時過ぎに起きてコーヒを淹れて飲み、仕事場へ行き、[全開のハイビスカスの花](#)をBlosxomblogに入れる。引用に使う『署名人』の部分を麻理のパソコンのスキャナーでテキストに取り込む。原稿を少し書く。炊飯器のスイッチを入れる。6時過ぎに夕刊を見る。それから、ジャガイモとワカメのみそ汁を作り、ハムエッグを焼いて夕食。仮眠。若年性アルツハイマーの番組と「新・京都迷宮案内」を見て、居間のテーブルで蜜柑を食べて、仕事場へ。原稿を書いて、引用に使う「蜷川幸雄が舞台の模型を作って来た」というところを「清水邦夫全仕事」から、またスキャナーで取り込む。それから、「灰皿町blog日記」を書く。風呂に入ってから、林檎、薩摩芋小1切れ、どら焼き1個、煎餅2枚。牛乳。薬とサプリメント。仕事場に戻って「灰皿町blog日記」を書き上げる。

00:38:41 - shirouyasu - No comments

2007-02-15

野々歩とネムちゃんが来た。

14日の朝、トイレで読んだ『脳と意識の地形図』には、「注意」、つまり意識の集中のことが書いてあった。ある領域に神経細胞の回路が集中するということのようだ。注意が別の注意に切り替えられないと固執ということになる。清水邦夫の戯曲について書くに当たって、『署名人』を読み返し始める。昼頃、野々歩がネムちゃんを連れてくる。小林医院に行つてわたしの血圧などの薬の処方箋を貰い、薬

局で薬を処方して貰って買い、それから富ヶ谷図書館に行って「清水邦夫全仕事」4冊と平田オリザ著「演劇入門」を借り出しに行った麻理が、2時近く帰ってきて、里芋ほうれん草入りの卵おじやを作って、四人で遅い昼食。その後、わたしは仮眠。3時半頃、野々歩たちが帰る前に、麻理がちょっと見てと言って、パソコンの画面でWebの「[The Flash Mind Reader](#)」を開いて、「自分が思った数字が当てられてしまう」というだった。そこに書いてある「やり方」の通りにやってみると、確かに自分の思った数字が当てられる。「ね、不思議でしょう」と麻理。何回かやっているうちに、野々歩が分かったと言って仕掛けを説明してくれた。なるほど、その通りだった。麻理が出掛け、野々歩とネムちゃんが帰って、[咲きかけたハイビスカスの花](#)をBlosxomblogに入れる。それから『署名人』を読み終えて、居間に行って夕刊を読む。7時頃残っていたカレーを温めて、トマトを切って、茹でたほうれん草とで、一人夕食。食べ終わった頃、麻理が帰ってきた。仮眠。「ためしてガッテン」を見て、「相棒」を見ていると、山本遊子さんから電話があって、「今、伊藤比呂美と一緒にいる」というので、代わって貰って、日本に来たばかりという伊藤さんと久しぶりに言葉を交わした。麻理に代わって麻理も伊藤さんと久しぶりに言葉を交わした。「相棒」を見終わって、居間で蜜柑を食べてから仕事場に行って「灰皿町blog日記」を書く。風呂に入る。出してから、林檎、薩摩芋1切れ、小あんパン1個、煎餅小2枚、牛乳。薬とサプリメント。仕事場に戻って、「灰皿町blog日記」を書き上げる。

01:18:03 - shirouyasu - No comments

2007-02-14

田中友海さんの小説『空白の1/4』を読み終える。

13日の朝、トイレで読んで『脳と意識の地形図』には、「失認」ということが書いてあった。頭の天辺には前頭葉という身体各部に対応した神経細胞があって、それとの連携で空間概念は構築されているということだ。その連携が切れると、「失認」といって、例えば左側にある物は認識できないということになるらしい。メールに返事を書き、[窓辺の日差しの画像](#)をBlosxomblogに入れる。田中友海さんの小説『空白の1/4』を読み、終わりのところちょっと残して、もう一つあったエビのかき揚げで天ぷら蕎麦を作って昼食。仮眠。うとうとしながら「はぐれ刑事純情派」を見る。人情物が子守歌となる。3時過ぎに起きて、コーヒーを淹れて飲む。仕事場に行き、『空白の1/4』を読み終える。「0」=空白という黒い渦巻く穴が空中や地面に発生するのが見える者は、その魅力に引き込まれて、穴の中に吸い込まれて消えてしまう。そして消えるとその人間はその者の存在の痕跡を記憶にいたるまで消滅してしまうが、その穴のことを信じる者同士の記憶には残る。アオイという男の高校時代の透明な存在感の親友由規が、教室の窓から飛び降りて消えてしまったのは、その穴に吸い込まれたからだった。アオイは、その十数年後、砂浜の近くに孤立して立つ家を手に入れて、一人で住んでいると、ある時、幼いつゆくさという少女が現れて一緒に暮らすようになる。実はその少女は少年の夢をよく見ていたが、アオイから由規の話を聞いてその少年が由規と分かる。そして、この少女の手引きでアオイは、浜辺の露草のところに発生した「0」の穴の中に吸い込まれて行く。少女はアオイと由規の記憶を持って生きる。というような内容。居間に行って夕刊を見て、7時前に長ネギのみそ汁を作り、餃子を焼いて、一人で夕食。食後、仮眠。テレビの「学校へ行こう」を見る。仕事場へ行って、田中友海さんにメールで感想を送る。それから、「灰皿町blog日記」を書く。風呂に入る。林檎、薩摩芋一切れ、どら焼き半分、煎餅小2枚、牛乳。テレビでスポーツニュース。薬とサプリメント。仕事場に戻って「灰皿町blog日記」を書き上げる。

00:22:07 - shirouyasu - No comments

2007-02-13

田中友海さんの小説『空白の1/4』の半分を読む。

12日の朝、トイレで読んだ『脳と意識の地形図』には、ページの上に印刷された白黒だけのコントラストの強い画像を読者が視覚で受け止める時の神経細胞の働きが記述されていた。神経細胞が刺激を受け止める時、予測をして受け止めるということだ。文字列とは違う画像は新たなものとして受け止めるが、ページの数字などは無視されてしまうということだ。麻理と一緒に黒豆を煮る。わたしがWebで見つけたやり方で、先ず、砂糖、塩、醤油、重曹などを入れて煮立てた煮汁を作り、沸騰したところに黒豆を入れて数時間置き、それから中火で煮立てた後、萤火で柔らかくなるまで煮る。煮汁に黒豆を入れたところまでで、日に当たって咲いたカタバミの花を撮る。仕事場に行って、清水邦夫作『署名人』の公演を見に行った日を探し、日録では見つけられないで、Webの「清水邦夫著作リスト」のサイトから見つけた。[去年の3月28日](#)だった。わたしは5月か6月だと思っていたので、日録の「3月」は見なかったのを見つけれなかったのだった。1時を廻って、昨日麻理が買ってきたエビのかき揚げで天ぷら蕎麦を作って昼食。仮眠。うとうとしているうちに、テレビの名取裕子が出ている検死官ものの刑事ドラマを見てしまい、4時頃起きる。仕事場に行って、[今年初めてのカタバミの花](#)をBlosxomblogに入れる。それから、黒豆の鍋に火を入れて、米を研ぐ。5時過ぎから庭が暗くなるまで、5分置きにminiDVカメラで庭を撮影する。その間に、黒豆の火加減を見たり、炊飯器のスイッチを入れたりしたが、部屋に電灯を点けないで暗くなる庭を眺めていた。6時過ぎて、仕事場に行き、今年の映像演劇学科の田中友海さんの卒業制作の小説『空白の1/4』を読み始める。7時過ぎて、麻理を待っていたが帰ってこないの、また脚も痛み出したので、カレーを温めてトマトを切って、テレビの「人間関係力テスト」とかいう番組を見ながら夕食。食べ終わったところに麻理は帰ってきた。脚の痛みがひどくなり、痛み止めの薬を呑んで寝室のベッドに横になって、「人間関係力テスト」を見る。9時半頃、風呂に火をつけて、仕事場に下りて小説『空白の1/4』を半分まで読む。それから「灰皿町blog日記」を書く。風呂に入ってから、林檎、薩摩芋一切れ、どら焼き半分、煎餅1枚半、牛乳。薬とサプリメント。仕事場に戻って「灰皿町blog日記」を書き上げる。

01:05:12 - shirouyasu - No comments

2007-02-12

カレーを作る。それだけの日。

11日の朝、麻理が出掛ける時、「清水邦夫全仕事」の4冊を富ヶ谷図書館に返却して貰い、来週また借りるように予約して貰った。トイレで読んだ『脳と意識の地形図』には、空間概念は自分の身体を動かして得られると書いてあった。子供の時に広いと思っていたところが、大人になってから行ってみると狭いと感じるのは、身体の違いのためだという。カニサボテンの花を撮ってから仕事場へ行き、今まで読んだ清水邦夫作品の梗概やメモを書いたファイルをプリントして、ざっと読んでみる。コロッケで昼食。仮眠。3時頃仕事場に行き、[ピンクのカニサボテンの花](#)をBlosxomblogに入れる。薩摩芋を蒸かす。引き続き、カレーの下ごしらえをする。冷凍の肉を解凍して、カレーを煮始める。夕方、脚の痛みが出てきて気分が沈む。清水邦夫の戯曲についての文章を考えるが、取りかかりが見つからない。麻理が帰って来て、7時過ぎにカレーで夕食。ベッドに横になって、NHK大河ドラマ「風林火山」を見る。ややこしくて分かり難い。仕事場に行って、清水邦夫の戯曲の魅力を感じる切っ掛けになた『署名人』の公演を見た日の日録を探したが分からなくなっていた。11時廻ったので「灰皿町blog日記」を書く。風呂に入ってから、林檎、薩摩芋中1切れ、どら焼き半分、くず煎餅、牛乳。薬とサプリメント。新聞を資源ゴミとして整理。仕事場に戻って、「灰皿町blog日記」を書き上げる。

01:00:50 - shirouyasu - No comments

2007-02-11

清水邦夫作『哄笑—智恵子、ゼームス坂病院にて』を読む。

10日の朝、トイレで読んだ『脳と意識の地形図』には、人の脳に詰まっているものを「概念」として解き明かして行くと書いてあった。そして先ず「空間概念」のことが書いてあった。庭の**花が終わったカニサボテン**を撮って、仕事場へ下りて、Blosxomblogに入れる。高頭麻子さんから送られてきた「林忠正 ジャポニスムと文化交流」という本をぱらぱらと見て、林忠正という人が明治の初期にパリに住んで日本美術の紹介に尽力したということを知る。2時頃、昨日買ってきたかき揚げで天ぷらうどんを作って昼食。仮眠。3時半廻って起きて、お米を研ぎ、大根とメカジキを煮る。炊飯器のスイッチを入れる。コーヒーを淹れて飲む。仕事場へ行って、日録ノート。清水邦夫『哄笑—智恵子、ゼームス坂病院にて』（1991）を読み始める。麻理がほうれん草のみそ汁を作って、カジキと大根の煮付けで、7時半過ぎに夕食。仮眠。8時過ぎに起きて、仕事場へ行き、『哄笑—智恵子、ゼームス坂病院にて』を読み終える。その梗概を書く。内容は、高村光太郎の妻智恵子が亡くなる二年前のエピソード。2・26事件があった年の昭和11年5月上旬。智恵子が入院していたゼームス坂病院の隣の南品川ゼームス坂教会の集会室が舞台。ゼームス坂病院の患者たちは塀を乗り越えて教会に自由に来られるようになっている。智恵子も塀を乗り越えてやってきてここで過ごすことがある。そして、ここで光太郎と会うが、智恵子は光太郎は死んだものと思いこんでいるので、光太郎を光太郎と認めない。教会の娘塩子は麻布三連隊の野崎中尉から貰った「心のバンドネオン」を愛聴していて、智恵子と聴く。塩子は智恵子の記憶を取り戻させようと、光太郎に「光太郎を尊敬していた人物」として「光太郎」を演じさせる。そして、彼女に光太郎のいいところや悪いところ語らせる。狂った智恵子の透明な笑い、哄笑。自分自身を演じる自分は何者かという疑問が光太郎の胸に起こる。2・26事件に絡んで、野崎中尉が軍隊から脱走して憲兵隊が塩子のところに探索に来た時、名前と身分を問われて、智恵子は光太郎を自分の夫だと証言する。そういうことがあって、一時、記憶が戻るが、また狂気の世界に戻ってしまう。野崎中尉は塩子に会った後、自殺したと伝えられる。という暗い時代の愛の話。その後、今まで読んだ清水邦夫作品の作品ごとの梗概などを書いたファイルを整理する。それから、「灰皿町blog日記」を書く。風呂に入ってから、林檎1個、薩摩芋極小3切れ、一口羊羹、煎餅小3枚、牛乳。薬とサプリメント。仕事場へ戻って、「灰皿町blog日記」を書き上げる。

01:28:48 - shirouyasu - No comments

2007-02-10

加圧リハビリの体験リハビリに行く。

9日の朝、トイレで読んだ『脳と意識の地形図』は、第5章「脳と意識」に入った。脳の中には体験して学んだことが一杯詰まっているということが書いてあった。「人間は知ってるということを知っている」ということだ。日録ノートして、mixiのメッセージやメールに返事。早めの12時過ぎに麻理と卵おじやで昼食。麻理と一緒に、1時半頃家を出て、タクシーで渋谷駅へ行き、東横線で武蔵小杉で下車して小田切病院へ。予約の3時から持っていった紹介状とMRI検査の写真を見た小田切医師から、かなりの回数をやらなければならないとかいろいろと説明を受けて、ベルトを右腕の根本に巻いて、掌を開いたり閉じたりして、巻いてない方の左の掌と比べて血行の違いを見る。それから、両太股にベルトを巻いて廊下で100メートルほど歩く。とても軽く歩ける。右膝下の痛みを訴えると、それは「腰部脊柱管狭窄症」のせいということ。加圧リハビリでは「腰部脊柱管狭窄症」は治らないといわれる。ということは、「腰部脊柱管狭窄症」と「大腿骨頭壊死症」は別々治さなければいけないということか、と思いが重くなる。その後、事務の人と費用と日程の相談をする。費用は保健がきかないのでかなり高い。全体の印象からわたしも麻理も落ち込んだ気分になって、武蔵小杉の駅のスーパーでフライなど買って東横線で渋谷に戻り、タクシーで帰宅。ほぼ二ヶ月ぶりに電車に乗って、結構歩いたので疲れた。野村健太さんからDVDが送り返されてきて、「丹波の黒豆茶」が入っていたので、それを淹れて飲む。真っ黒な香ばしい汁を飲み、その後豆を食べ

る。仕事場に行って清水邦夫作品の「梗概ファイル」を作る。7時過ぎに買ってきたフライで夕食。加圧リハビリについて、麻理と二人で話し合う。食後仮眠。[夜のシクラメンの花](#)を撮って、仕事場へ行き、Blosxomblogに入れ、「梗概ファイル」を整理する。それから、「灰皿町blog日記」を書く。風呂に入る。出てから林檎、薩摩芋、羊羹、煎餅、牛乳。薬とサプリメント。仕事場に行って、「灰皿町blog日記」を書き上げる。

01:22:45 - shirouyasu - No comments

2007-02-09

清水邦夫作『弟よ 一姉、乙女から坂本龍馬への伝言』を読む。

8日の朝、トイレで読んだ『脳と意識の地形図』には、色はものの方にあるのではなく、脳の中にあるということが書いてあった。色は光の波長によって決まるが、光の波長を色として見るということは、脳が決めていているという。連続するスペクトルを、何色に分けてみるかは民族によって違う、ということ、要するにトップダウンプロセスによって、人の脳が色を決めているということだという。庭に出て水仙の蕾を撮って、仕事場に行き日録ノート。石田尚志さんから彼の文章が載った雑誌や、彼の作品の上映会やセッションなどのお知らせやチラシが幾つか送られてきた。彼の横浜美術館での作品が出来上がる場所に立ち会えなかったのは残念だった。メールで返事。清水邦夫作『弟よ 一姉、乙女から坂本龍馬への伝言』

(1990)を読み始めて、途中でキノコ入りきつねうどんを作って昼食。仮眠。高橋清さんからいよかんが送られてきて、痛い脚を引きずって階段を降り玄関へ行って受け取る。玄関まで行くのに時間が掛かるから、宅急便の人は何度も声を掛けていた。コーヒーを淹れて飲む。仕事場に行き、戯曲の続きを読んで読み終わる。Blosxomblogに[顔を出した水仙の蕾](#)を入れる。6時半ごろワカメと豆腐のみそ汁を作り、目玉ハンバーグを焼いて、一人で夕食。仮眠。「新・京都迷宮案内」を見る。仕事場に下りて、『弟よ 一姉、乙女から坂本龍馬への伝言』の梗概を書く。その内容は、坂本龍馬の姉乙女が龍馬の死後三年経って、龍馬に話しかける仕方て劇は展開する。長姉の千鶴は龍馬が死んだと信じられない。また、龍馬と約束しながら脱藩しなかった源之助は、それがトラウマになって龍馬の幻を見る。乙女は姉の千鶴に龍馬が死んだことを認めさせるために、龍馬の妻だったおりょうを京都から土佐へ連れてきて龍馬の死んだ姿を話させる。その折り、おりょうの兄藤五郎と今の愛人になっている清三郎がついてくる。藤五郎を見た千鶴は、彼を龍馬だと思ってしまう。千鶴の気持ちに合わせて、藤五郎は二重龍馬を演じる。そして脱藩した連中が洋服や靴の商売人になっていて、商売のために土佐にやってくるが、彼らが絡んで実は龍馬を殺したのは誰だったかという詮索などいろいろなことがあって、藤五郎は弾みで源之助に斬られ、それを見た千鶴は「龍馬が死んだ」と気を失う。そこに、医師の樹庵の弟子たちが持ち込んだカメラで全員が入った記念写真を撮ることになり、シャッターの時間を数えるために、乙女の音頭で「きらめくもの」を夢とか哀しみとか次々に上げていく。幕末の龍馬の周辺で生きて輝いていた若者たちの姿がそこにあったという話。梗概を書いて、「灰皿町blog日記」を書く。Webを見る。風呂に入る。林檎、薩摩芋小2切れ、煎餅2枚、牛乳。薬とサプリメント。仕事場に戻って、「灰皿町blog日記」を書き上げる。

00:34:45 - shirouyasu - 3 comments

2007-02-08

清水邦夫作『なぜか青春時代』を読む。

7日の朝、トイレで読んだ『脳と意識の地形図』には、脳細胞の働きとして、刺激を受け止める神経細胞から連合野などのハイレベルの神経細胞に情報が伝達されるボトムアッププロセスとその逆の伝達のトップダウンプロセスとがあって、トップダウンの方に「私」がいて、その二つのプロセスがそれぞれの個人のシステム

をなしているというように書いてあった。黒豆を煮る。仕事場に行って日録ノート。清水邦夫作『なぜか青春時代』（1987）を読み、途中で麻理が作って行った卵おじやで昼食。仮眠。コーヒーを淹れて飲む。庭に水を撒き、[去年の秋からまだ咲いているメキシカンセージの花](#)を撮って仕事場に行き、Blosxomblogに入れる。

『なぜか青春時代』を読了。居間に行って夕刊を読み、米を研いで炊く。7時頃、麻理が帰ってきて、買ってきた刺身で夕食。仮眠。ベッドに横になって「相棒」を見る。仕事場に行って、『なぜか青春時代』の梗概を書く。その内容は、都内の操車場に隣接したビヤホール「車庫」が舞台。今日で閉店するという日に訪れた海という女性が、その女主人のふねに、翌日が15年前の街頭闘争で町の自警団の追われて「車庫」に逃げ込み、ふねの機転で助けられた日に当たるので、その時の連中で集まる約束をしていたので、閉店を延ばして欲しいと頼む。ふねは彼女の頼みを聞き入れて閉店を一日延ばし、集会が開かれ、15年前に朗読された詩「風は死んだか、世界は死んだか」を朗読したりして盛り上がる。会話の中に「灰とダイヤモンド」と「エデンの東」のセリフが使われている。集会の後、ふねが海にその詩の出典を問いただしている時、ビヤホールに電気機関車が突っ込んでくる。その運転手がいなくなったと騒ぎになるが、ふねと海にとっては、互いに話しているうちに、その詩の作者が実は失踪中のふねの夫であり、また海の恋人だったということが分かる。ふねの娘竜子は、その男つまり父親の居所を知っているので、電話で来るように呼び寄せて迎えに行くが、誰も連れ来ないで、空想で「パパ」を作っていたのだという。そして、その空想の「パパ」を捨ててに行くとして出て行く。残ったふねと海は、それぞれ夫から、また恋人から解放されて乾杯し、二人でビヤホール「車庫」を詩にして朗読する、というもの。梗概を書いてから、「灰皿町blog日記」を書く。風呂に入ってから、湯船の水を取り替える。林檎、薩摩芋小2切れ、小布施の栗羊羹、煎餅小2枚、牛乳。薬とサプリメント。仕事場に戻って「灰皿町blog日記」を書き上げる。

00:56:46 - shirouyasu - No comments

2007-02-07

清水邦夫作『夢去りて、オルフェ』を読む。

6日の朝、トイレで読んだ『脳と意識の地形図』には、自閉症の画家がちょっと見た場面をきわめて細密に描けるということは、意識されることとは別に神経細胞は外界をきわめて細かく認知していて、彼はそれをそのまま描いているが、一般には意識に必要な細部は捨てられてしまうので細かいことは意識されないと書かれていた。本多陽子さんから入浴剤、羊羹、夢を語る1歳から100歳の人たちの写真集が入った応援グッズが送られてきた。早速お礼のメール。清水邦夫作『夢去りて、オルフェ』（1986）を読み始める。途中まで読んで、もやしとキノコを入れて汁蕎麦で昼食。仮眠。3時過ぎに起きて、コーヒーを淹れて飲む。[ヴィクトリアの美のようなもの](#)を撮って、仕事場に行きBlosxomblogに入れる。『夢去りて、オルフェ』を読み終える。夕刊を見てから、薩摩芋を茹でる。それから麻理が買って来てあった卵ハンバーグを焼いて、大根のみそ汁を作って、一人で夕食。仮眠、テレビでタレントが初めてスキージャンプをするのをうとうとしながら見る。風呂を沸かし、本多さんが送ってくれた入浴剤を入れる。麻理にシクラメンの實の話をしたら、実じゃないと言われる。仕事場に行って、『夢去りて、オルフェ』の梗概を書く。その内容は全体が、亡くなった警察官だった父の手帳に書き込まれていた「ぼくらの黒い旗のような外套の壁には、朝焼けの中で滅んでいったあの町が潜んでいる……」というフレーズと、「燃える馬」と「北一輝」という言葉から探索して、昭和14年に、佐渡の対岸の北陸の都市で、その父と友人たちの間に起こったこととして語られる。それは、北一輝を信奉する兄と、腹違いの妹との愛情関係にまつわる話で、その兄の一機は処刑された北一輝が生きてると妄想するようなカリスマ的な中学教師で、一機を愛する軍人の妻と関係して、姦通罪で訴えられるところまで追いつめられ、東京で映画の大部屋女優をしている妹のぎんを呼び寄せて、彼女の力を借りて解決を図ろうとする。舞台は、大火で焼け壊れた北陸酔ヶ浜遊園地の

回転木馬の前で、一機、ぎん、末の妹新子、軍人の妻、その軍人の義弟である軍人、その姉、メモを書き残した警察官などが、入れ替わり対決して話し合うが、一機たち兄妹が芝居を打って、関係が二転三転して混乱してくる。その間に兄一機と妹ぎんの愛情関係が見えてくる。混乱した中で、義弟の軍人が一機に斬りかかり、弾みで一機が彼を刺し殺してしまい、近くで見たいた一機を崇拜していた生徒たちが、裏切られた思いでナイフで一機を刺し殺してしまうと言う悲劇。自由な生き方を求めるアナーキーな一機という男の叫びが印象的な戯曲だ。その叫びの部分をOCRでテキストに取り込む。それから、「灰皿町blog日記」を書く。鍋に砂糖、重曹、塩、醤油で煮汁を作って黒豆を入れる。風呂に入る。林檎、薩摩芋小2切れ、小布施の栗羊羹、煎餅小3枚を食べて、牛乳を飲む。薬とサプリメント。仕事場に戻って、「灰皿町blog日記」を書き上げる。

01:09:10 - shirouyasu - No comments

2007-02-06

清水邦夫作『エレジー ー父の夢は舞うー』を読む。

5日の朝、トイレで読んだ『脳と意識の地形図』には、色、形、位置などの部分的な情報が視覚野から連合野で統合されると、また視覚野にフィードバックされて具体的な像が生まれるということで、この連合野などの高レベルの神経細胞から視覚野などの低レベルの神経細胞に一方的に送られる情報が「想像する」ということだと書かれていた。『眺め斜め』のDVDを貸した野澤なつみさんから、干菓子と一緒に送り返されてきた。ハイビスカスの枯れた花を煉瓦の上に置いて撮り、仕事場へ行く。日録ノート。野澤さんにお礼のメール。劇団民芸の宇野重吉の演出・主演で上演されたという清水邦夫作『エレジー ー父の夢は舞うー』（1983）を読み始める。途中で、2時頃、厚揚げ入りの蕎麦を麻理が作って昼食。仮眠。3時過ぎに起きて、[枯れたハイビスカス](#)をBlosxomblogに入れる。それから『エレジー ー父の夢は舞うー』を読み終える。内容の梗概をメモするが、書き難い。その内容は、69歳の兄平吉と63歳の弟右太の兄弟と、死んだ平吉の息子草平の内縁の妻32歳の塩子と彼女の叔母と婚約者と、家のローンを巡る話。右太は平吉が踏切の幻想を抱くようになったのに気が付く。現在平吉が住んでいる家のローンを、平吉が死んだら息子草平のものにするという条件で、草平が払っていたが、草平が死んだので塩子は払わないと言ってくる。平吉と塩子は、ライオンとトラとどちら強いとかかというつまらない言い争いをしたり、塩子は平吉を「冷血動物」とか批判したりするが、互いに認め合うところがある。平吉は同じ条件で塩子にローンを払わせることになる。しかし、塩子も払えないので叔母の敏子と払うことになる。塩子には若い医者との再婚の話もある。家を見に来た叔母と婚約者が、いない筈の平吉と顔を合わせて一騒動になる。こうした関係の中で、平吉と塩子はいろいろと言葉の遣り取りするうちに、平吉と塩子との間に、また右太と敏子の間に気持ちが通じるようになる。謹厳実直な平吉は胤の研究家であり、元生物の教師、血が濃くかつとするタイプの塩子はラシーヌ「アンドロマック」のエルミオーヌを演じたりする女優、いい加減なタイプの右太は映画のプロデューサー。平吉が塩子への好意を認めたために、婚約者は、息子の草平が実は些細な詐欺を働くようないい加減な男だったと明かす。平吉と右太にとって、それはショックなこと。夜、胤を揚げる平吉に塩子は思いを寄せる。しかし、自分を受け入れない平吉に対して酔っぱらって来て毒づいた後、外に飛び出して行くが、自動車の急ブレーキの音が聞こえるというもの。

「清水邦夫全仕事1981～1991」の付いている「磨り硝子ごしの風景IV」を読むと、清水邦夫さんは宇野重吉と「良寛」を素材にした戯曲を書く約束をしていたが、宇野重吉が死んで書かなかったこと、また蜷川幸雄演出で美空ひばりのオペラ「カルメン」の台本を書く話があったが、これも彼女の死で実現しなかったと書かれていた。7時頃、昨日のおでんの残りを温めて一人で夕食。寝室のベッドで仮眠。9時過ぎに風呂に火をつけて、仕事場へ下りて、『エレジー ー父の夢は舞うー』の梗概を書き直す。戯曲は、細部を生かしたセリフで書かれていて直線的に進まないの、どうしても落ちてしまうところが出て来てしまい、書きにくい。風呂の火を止めに

行って、「灰皿町blog日記」を書く。風呂に入る。林檎、薩摩芋小2切れ、煎餅小3枚、牛乳。薬とサプリメント。「灰皿町blog日記」を書き上げる。

00:16:07 - shirouyasu - No comments

2007-02-05

清水邦夫作『雨の夏、三十人のジュリエットが還ってきた』を読む。

4日の朝、トイレで読んだ『脳と意識の地形図』には、脳内での情報の伝達がフィードバックされて意識されると書いてあった。函館のMoleの津田さんから『熊谷孝太郎 はこだて記憶の街』という写真集が送られてくる。大日方欽一さんが解説を書いている。1920年代に撮られたスナップ写真集。『蜷川幸雄伝説』を拾い読みしたら、1982年5月に9年振りに蜷川幸雄演出で「日生劇場」で上演された『雨の夏、三十人のジュリエットが還ってきた』について書かれたところで、蜷川がこの作品について「商業演劇の枠組みの中で、一種の失われた革命劇をやることができました」といっているというので、読んで見る気になった。読み始めて、途中で厚揚げを入れた蕎麦を作って昼食。仮眠。3時過ぎに起きて、先ず米を研いでご飯を炊き、大根とこんにゃくとジャガイモを切って、つみれなどとおでんパックと一緒に煮る。煮えたところで、鍋を毛布にくるむ。それからコーヒーを淹れて飲み、あじさいの芽を撮る。仕事場に行って、[膨らんできたあじさいの芽](#)をBlosxomblogに入れる。それから『雨の夏、三十人のジュリエットが還ってきた』を読了。メモを取る。内容は、戦時中に北陸の地方都市に存在したという「石楠花少女歌劇団」のヒロインスター風吹景子が、30年振りに記憶が止まったまま意識を取り戻したので、当時の「バラ騎士の会」というファンの会の、今ではデパートの重役とか図書館長などになっている5人の連中が、デパートで復活公演をやろうと、深夜のデパートで「ロミオとジュリエット」の稽古を始めるが、ジュリエット役の景子は、年取った男たちが代わる代わる演じるロミオでは満足できず、ロミオ役には当時の男役スター弥生俊をほしがると、なかなか見つからない。やっと見つかったら、妹と名乗る女が視力を失った俊を連れてくるが、この女の邪魔でロミオ役はやらない。ロミオ役は若い女では景子が負い目を感じて駄目とか決まらないでいると、家出した俊が女装した若い男に連れられて来て、稽古をするが、墓の場面ですまずいて転落して死んでしまい、同じように景子も転落して死んでしまう。最後は集まってきた大勢のジュリエットたちが歌うなか、若い女の「うたえ！自分の歌を歌え！」のセリフで終わる、というもの。町の有力者たちがロミオを演じるという、既成の意識のあり方をグロテスクな姿で表し、それを否定するのが「革命劇」なのだろうかと思った。7時前に麻理が帰ってきて、おでんで一緒に夕食。その後、寝室のベッドで横になって、クジラの番組とNHK大河ドラマ「風林火山」を見る。Nスぺの頭のところを見て仕事場へ行き、「灰皿町blog日記」を書く。風呂に入る。その後、林檎、薩摩芋一切れ、最中、煎餅小2枚、牛乳。薬とサプリメント。仕事場を下りて「灰皿町blog日記」を書き上げる。

00:20:21 - shirouyasu - No comments

2007-02-04

清水邦夫作『タンゴ、冬の終わりに』を読む

3日の朝、トイレで読んだ『脳と意識の地形図』には、刺激に反応して神経細胞が発火して、それが基礎になって更に高レベルの反応が起こるところに意識が発生すると思えばいいのではないかと書かれていた。日向のシクラメンの花を撮って仕事場へ。清水邦夫作『タンゴ、冬の終わりに』（1984）を読み始めて、途中まで読んで、2時前に豆腐入りの蕎麦で麻理と昼食。仮眠。3時頃起きる。コーヒーを淹れて飲み、仕事場へ、[日向のシクラメンの花](#)をBlosxomblogに入れる。『タンゴ、冬の終わりに』を読み終える。内容をまとめる途中で南瓜の煮付けの残りなどで6時半頃夕食、そして仮眠。『タンゴ、冬の終わりに』は、日本海沿いの町のままな

く取り壊される映画館北国シネマの客席で展開する芝居。3年前に引退して郷里のこの映画館に戻って、記憶が怪しくなっている中年の元俳優の清村盛と妻のぎんのところ、ぎんが盛の記憶を取り戻させようと、彼の名前で送った手紙によって、かつて愛しあった女優の水尾がやってきて、彼女を追って現在結婚している夫の連もやって来る。妻のぎんを「姉さん」と呼ぶ程おかしくなっている盛は、水尾と会っても記憶を取り戻せない。水尾は自分と盛の間に以前あった愛の物語を話す。盛はそれに対して他人事のように受け答えるが、終いに自分の若い頃のセリフがトラウマのように戻ってくるが、続けられず、水尾が続けて、そのまま盛と水尾はタンゴを踊り、盛り上がったところで盛はそこに来た連に、水尾のパートナーを譲り、記憶が戻ったかのようにぎんに抱かれる。水尾と連がぎんに別れの言葉を告げている時、客席で盛は子供の頃学校から盗んだという孔雀を捕まえたとボロ布団を抱きしめる。ぎんはあきれて立ち去ろうとするが、水尾は盛に幻想から覚めるように諷めて、ボロ布団を奪うと、盛は興奮して水尾の首を絞めて殺してしまい、引退芝居のオセローの最後の場面と錯覚して、引退の言葉を述べながら、幻のパートナーとタンゴを踊るが、連にナイフで刺され、踊り続ける。最後は、ぎんが旅立ちの姿で、自分が盛の狂気に合わせられなかったことを語り、映画館が取り壊されることを告げると、映画館の客席に幻に客が詰めかける。題名の「タンゴ」は、若い時の幻の舞台のセリフ中で鳴り響く。そのセリフは、劇の最初の場面で、まだ盛が正常だったとき、最後にもう一度、ぎんとの会話の中で語られる。それは、理想に忠実に生きてために収容所に入れられた男が、死に赴くに当たって仲間ということばで、「ほんとに、こんな日に、こんな場所で、ぼくらの革命と自由をうたうタンゴを聞けるなんて...」と語られ、更に、小学校のころの夏の水飲み場の情景などが語られる。タンゴの音楽とこの「革命と自由」という言葉に、清水さんの青春が込められているように感じた。このまとめを書いた後、Webやメールを見たりして、「灰皿町blog日記」を書く。風呂に入った後、林檎、乾燥芋1枚、一口羊羹、煎餅2枚、牛乳。薬とサプリメント。仕事場に戻って「灰皿町blog日記」を書き上げる。

00:53:47 - shirouyasu - No comments

2007-02-03

野村健太さんのblogの「鈴木志郎康作品」感想全部

[野村健太さんのblog「みみのまばたき」カテゴリ](#) [鈴木志郎康映像作品]

表示に時間が掛かります。お待ち下さい。

22:51:08 - shirouyasu - 1 comment

とりあえず手術はしないで加圧トレをすることを、小澤医師に話す。

2日の朝、トイレで読んだ『脳と意識の地形図』には、麻酔を掛けた人にロビンソン・クルーソーのフライデーの話を読んで聞かせると、神経細胞に40ヘルツの発火が起こるが、フライデーが記憶に残っている人と残っていない人がいるから、40ヘルツのガンマー波が意識とは言えないのではないかという実験があると書いてあった。野村健太さんのblog「みみのまばたき」に、[わたしの映像作品『極私的に遂に古稀』と『極私的な多摩王の感傷』を見た感想](#)が載っているのを読む。昨年の12月から、野村さんはわたしの映像作品のほとんど全部についてblogに文章を書いてくれたことになる。野村さんが「極私的」という言葉についてblogに書いたのを、わたしが検索で見つけて、そこにわたしの映像作品を見たいとあったので、DVDに焼いて次々に貸すこととなり、「極私的に作品鑑賞」をして、それをblogに書いてくれたというわけ。[シクラメンのヴィクトリアの少なくなった花](#)をBlosxomblogに入れてから、麻理が作ったフカヒレスープおじやを食べて、青山病院の整形外科へ行く。小澤医師と話し、とりあえず手術はしないで、小田切病院で加圧トレーニングをしてみることにする。紹介状を書いて貰い、レントゲンとMRIの写真を借りる。帰宅してコーヒーを飲んで、小田切病院に電話して「体験トレ

ニング」の日時を聞く。2月9日午後3時に行くことになる。それから、ハスと牛蒡と南瓜を煮る。夕刊を見る。6時半頃、南瓜の煮付けとコロッケとみそ汁で麻理と夕食。ベッドで仮眠。8時頃までぐっすり眠ってしまう。目が覚めたら、テレビで日本の農業の危機が語られていた。仕事場へ下りて、清水邦夫作『とりあえず、ボレロ』（1983）を読み終える。内容は、二人の女が一人の男を愛して、二人で力を合わせてその男を守ったり、奪う会ったり、争い、張り合ってきたという女の友情のありかたが、日本海沿いの町の古い写真館を舞台に展開するというもの。二人の女のうちの一人「ふね」がこの写真館の主になっている。そこへ、20年前に別れたもう一人の女「しのぶ」が、今は記憶喪失になった男「チャム」を連れてやって来る。二人の女の邂逅、昔を懐かしむ会話、張り合う感情の披瀝、男を守るために共同したことなどが語られる。現在、しのぶはチャムを支えきれなくなって、ふねのところに捨てようとして来たのだが、精神病院に入ったことがあり、帽子のマニアクなコレクターで、妻の妙子に支えられている、ふねの息子哲夫はチャムに友情を感じ、町で起こった少女陵辱事件を利用して、二人の女に協力させてチャムを守らせ、二人の間に若い頃の友情を復活させるというストーリー。二人の女の会話の遣り取りが、二人の感情の流れを作り、それが音楽のように展開する。二人の女が友情を築いて行くのが感動的だ。読み終わって、「灰皿町blog日記」を書く。風呂に入ってから、林檎、薩摩芋小こ切れ、一口羊羹、煎餅3枚、牛乳。薬とサプリメント。仕事場に戻って、「灰皿町blog日記」を書き上げる。

01:05:39 - shirouyasu - No comments

2007-02-02

清水邦夫作『昨日はもっと美しかった』を読む。

2月1日の朝、トイレで読んだ『脳と意識の地形図』には、意識は40ヘルツのガンマー波だという説があると書いてあった。漫然としている時は、脳のあちこち神経細胞に40ヘルツの発火が見られるが、一つことに意識を集中すると、そこだけが40ヘルツの発火が見られるという。赤いシクラメンの花を撮って仕事場に行き日録をノートする。それから加圧リハビリの体験予約の日時について問い合わせる。申し込みが多いので調整しているということだった。清水邦夫作『昨日はもっと美しかった—某地方巡査と息子にまつわる挿話—』（1982）を読む。内容は、地方巡査の一家の話。男（兄）が都会の河川敷の草むらを姪と散歩しているシーンで、家族のことを語るころから始まる。弟が失踪して7年を経て失踪宣言をした18年前の通夜の日に撮った家族の記念写真によって、両親が紹介され、両親は父が駅前交番の巡査をしていたときのなれそめを語り、妹が紹介される。その通夜に、遅れてきた署長の娘に、兄がいろいろと弟のことを聞いているうちに、この娘が、父が庭に埋めた毒薬のホスゲンを1、2滴コップに垂らして飲むと、陶酔して弟と性交できたといい、更にホスゲンを掘っているのを父に見つかり、父が弟を殴っているところで、逃げてしまったという話をする。弟は父に殴り殺されてホスゲンが埋められていた赤いカンナが咲くところに埋められてしまったのではないかという疑惑が生まれる。最後はまた河川敷の草原に戻って終わる。弟が口にした「空家の暗がりの握手」がキーワードとして、署長の娘の登場の切っ掛けになっている。読み終わって、2時前にカレーの残りで昼食。仮眠、「はぐれ刑事純情派」をうとうとしながら見る。3時過ぎに起きてコーヒ-を淹れて飲む。仕事場に行ってメモを取ってから、教えられた演劇書専門の古本屋「GOLDONI」に電話で「清水邦夫全仕事」の在庫を聞くが、無いという返事。それから『とりあえず、ボレロ』（1983）を読み始めて、半分読んで、大根のみそ汁を作って麻理が買ってきてあったコロッケとサラダで夕食。ベッドでちょっと眠り、「新・京都迷宮案内」を見て、風呂に火をつけて、仕事場に行き、[幾つか咲いている赤いシクラメンの花](#)をBlosxomblogに入れる。風呂の火を止める。また仕事場に戻って「灰皿町blog日記」を書く。風呂に入り出してから、林檎、薩摩芋一切れ、大福半分、煎餅、牛乳。薬とサプリメント。仕事場に戻って「灰皿町blog日記」を書き上げる。

00:00:33 - shirouyasu - No comments

2007-02-01

清水邦夫作『一九八一・嫉妬』を読む。

31日の朝、トイレで読んだ『脳と意識の地形図』には、神経細胞の発火の頻度は眠っているときは1~2ヘルツで、普通に意識が働いている時は40ヘルツぐらいで、この頻度が高い程豊かな経験ということになるが、てんかんの場合のように頻度が高すぎると意識を失うということなる、と書いてあった。白いシクラメンの花を撮る。仕事場に行って、日録を書いて、清水邦夫作『一九八一・嫉妬』(1981)を読み始める。ちょっと読んだところで、麻理が布団のカバーを変えるのを手伝う。寝室のベッドの敷き布団もちょっと直す。麻理が春雨スープおかゆを作って昼食。その後、仮眠。「はぐれ刑事純情派」をつけてうとうとする。3時過ぎに起きて、コーヒーを淹れて飲む。仕事場に行って、『一九八一・嫉妬』を読み終える。日本海沿いの町に洋服店と私設気象館が隣り合っていて、その気象館に独りで住む「姉」が、隣の洋服店の独身の「兄」から覗かれ、侵入されたと、東京に住む「妹」に手紙を書いたために、妹夫妻がやってきて、その覗きや侵入の事実を確かめて、妹は「姉」の妄想と判断して病院に入院させようとするが、「兄」は「姉」を愛していて、夫と計って、妹の目を盗んで自分の家に引き込むが、「兄」は実は「姉」が既に死んでいない「弟」を愛していたのが分かり、二人は憎悪をむき出しにして果物ナイフと裁断ハサミを手ににらみ合うことになる。この気象館は国語教師だった姉妹の父が昭和28年の夏、槍ヶ岳で「ブルーサン=青い太陽」を見て気象学に入れ込み、私設の気象予報所として作り、黒い旗で予報を知らせた。「ブルーサン」は「姉」に取って真実の愛の象徴となっている。一方、洋服屋はスキー選手だった弟を愛していて、弟の身代わりとした「人台」に向かって、映画「老人と海」のセリフを言ったりする。「ブルーサン」を「青い太陽」でWebで検索したら、[黄砂によって現象](#)ということだった。「東京新聞」の夕刊を見て、清水哲男さんが「俳句界」の編集長になるのを知る。6時過ぎに、昨日のカレーをを温めて夕食。寝室のベッドで仮眠。1時間ほど眠って、「ためしてガッテン」のカレーを見る。唐辛子、ニンニク、バター、砂糖を入れると美味しくなるということだ。その後、「相棒」を見ていると麻理が帰ってきたので寝室のテレビを譲って、仕事場のテレビで「相棒」の後半を見る。[四つ咲いた白いシクラメンの花](#)をBlosxomblogに入れる。それから、「灰皿町blog日記」を書く。11時半廻って風呂に入り、出てから林檎、薩摩芋一切れ、大福半分、煎餅、牛乳。薬とサプリメント。仕事場に戻り、「灰皿町blog日記」を書きあげる。これで、1月が終わった。12月14日以来一月半、電車に乗ってないことになる。

01:03:27 - shirouyasu - No comments